



VARILITE®

VARILITE 製品取扱説明書

バリライトシーティングシステム

【車椅子用バリライトクッション/バックシステム】

安全に製品をご使用になるために、この取扱説明書を必ず読んでから、
本製品をご使用ください。

重　　要

この製品を供給される販売店様へ：

必ず、このマニュアルをご使用者ご本人または、介護をされていらっしゃる方にお渡しください。必ず、ご使用方法・メンテナンス情報を提供してください。

この製品のご使用者様、または介護をされる皆様へ：

必ず、ご使用前にこの取扱説明書を読み、常にいつでも見られるように保管してください。

もし、ご不明なことがございましたら、お気軽に下記までお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング 福祉機器事業部

電話番号 03-3821-7331 info@yukitrading.com



警　　告

- 車椅子上でクッションやバックサポートを変更すると、車椅子の座面の高さ、背シート、フットサポート、アームサポートなどの調整が必要になる場合があります。シーティングに詳しいセラピストなどへ相談し、ご使用者に適合した車椅子・クッション・バックの調整を行ってください。
- 特に骨盤の骨突出部周辺の皮膚チェックは、定期的に規則正しく皮膚に赤みがないかどうかを観察してください。ご使用者に合ったチェック方法などは、シーティングに詳しいセラピストへご相談ください。



全ての VARILITE シーティングシステムのためのご注意

- VARILITE の座・背クッションは、必ずカバーを付けてご使用下さい。
- カバーはクッションを穴あき・汚れ・本体側生地の磨耗から保護するのに役立ちます。
- VARILITE 座・背クッションを先のとがったものや火のそばに置かないで下さい。
- クッションの上に、先のとがったものや重いものを乗せないでください。
- 長い期間、極端に暑いところや直射日光のあたるところに保管・放置しないでください。

お買い求め頂き誠にありがとうございます。VARILITE(バリライト)座クッションは他に類を見ない車椅子用クッションです。ご使用者の状態や好みに合わせた調節が可能です。まず、正しい姿勢を保てるので効率的な動きを可能にします。また、ウレタンとエアーによる分圧効果が高いので皮膚組織保護や振動吸収にも優れています。そしてものすごく軽量な車椅子用クッションです。ご購入のVARILITE クッションの性能を完全に引き出す為に、次の使用説明書をよくお読みの上、保管して参考になさって下さい。

サイズの確認：身体寸法に合わせ幅・奥行が合うものを選択して下さい。

サイズが合わないと体圧分散効果が減少するだけでなく、安定性が悪くなります。幅、奥行を合わせて使用することでクッションの効力を最大限発揮できます。

バルブ位置の変更：座クッションは、最初バルブの位置が右利きの方用にセットされています。バルブの位置を変えるには、カバーのチャックを開けてクッションを取り出して下さい。クッションを裏返してバルブが左側に来るようにしてカバーの中に戻します。カバーのファスナーを閉める前にバルブがバルブ用に開けてある穴の中にきちんと差し込まれているのを確認して下さい。

(ご注意：本製品はカバー無しでは絶対に使用しないで下さい。

クッションの破損の原因となります。尚、リフレックス、ゾイド、プロフォーム NX、メリディアン、メリディアンウェーブはクッションの形状からバルブ位置の変更はできません。)

クッションの調整：

(1) 【全てのクッション共通】最初にバルブを開けてクッションを膨らませます。(自動的に膨らみます) 個体差がありますが大体 30 秒~2 分程待ってからバルブを閉めます。

※リフレックスは自動で吸気します

(2) 【全てのクッション共通】 VARILITE クッションの「FRONT」の方を前部にして車椅子に置きます。

(3) 【全てのクッション共通】クッションを敷いた後一番奥まで座り、バルブを開いて臀部形状が出来るまで空気を抜きます。

※クッションにより調整方法(空気の抜き方)が異なります。下記 a)~e)に照らし合わせて調整を行ってください。

a) レギュラーバルブ(ストレータス・エボリューション・ゾイド)の場合

バルブを約半回転させ 4 秒前後(体重等により個人差があります)空気を抜きバルブを閉じます。

目安として座骨の下に手をいれ、1~2 cm 位浮いている状態が好ましいです。

※空気の抜きすぎにご注意ください。骨突出の大きい方、底付きの心配がある方は空気を多く残したセッティングにすることをお薦め致します。

b) PSV バルブ (ソロ PSV) の場合

PSV バルブは閉じている状態から約一回転バルブを開くとバルブの窓に数字の「1、2、3」が表示されます。「1」は一番空気を残した状態のセッティングで、「3」は一番空気が少ない状態、「2」はその中間になります。数字に合わせ空気が抜けきるのを待って（およそ 10~20 秒）バルブを閉めると平均的に適圧になります。基本的には「2」をお薦めしております。

※状況に合わせてお好みのセッティングに出来ますが、特に「3」を使用する際は底付きにご注意ください。

c) 前後 2 バルブ (メリディアン・メリディアンウェーブ) の場合

メリディアン・メリディアンウェーブの場合は前後の空気室をそれぞれ調整することが可能です。前側の空気室は黒、後ろ側の空気室はグレーのバルブになっています。調整方法は

- ①前側の黒いバルブを約半回転開き 2 秒前後したら閉じます。
- ②前（もしくは横）からご利用者のベルトライ（もしくは大転子等）を見ながら後ろのグレーのバルブ一回転ほど開き、ベルトライが 1~2cm 下がったところでバルブを閉じます。
- ③前と後ろの段差をなくすために最後に黒い前のバルブを半回転させ 1 秒ほど空気を抜いて閉じます。

d) 左右 2 バルブ (プロフォーム NX) の場合

プロフォーム NX は空気室が座面後方半分で一体になっており、中で左右に部屋割りがしてあり、それぞれの空気室の調整が可能です。また、ベース部の加工が可能な特殊クッションで、骨盤の左右差、回旋、その他特殊な状況下での座位保持の為に使用します。その為**必ず姿勢の評価を医師、又はセラピストの方に受けてからご使用ください。**

※空気室が小さい為底付きにご注意ください

e) 自動調整バルブ (リフレックス) の場合

リフレックスの場合は自動調整バルブが内臓されているので、荷重がかかっていない場合は自動的に膨らみます。膨らんでいる状態でご利用者に一番奥まで座って頂くと、空気が自動的に抜け、底付けが起こり難い位置で自動的に止まります。（微調整は出来ません）



リフレックスご使用上のご注意

- 赤いプラグは洗濯の際にのみご使用ください。故障の原因となります。座る時にプラグをバルブに差し込んでいると空気の調整が出来なくなります。
- 本体後方についているバルブを持ったり、引っ張らないで下さい。バルブが故障する恐れがあります。
- 本体にカバーをかける際、バルブが折れ曲がったまま面ファスナーを閉じないようにご注意下さい。



(4) 【全てのクッション共通】底付きもしくは調整不備の際。

上記(1)からやり直して下さい。

(5) エボリューション、プラフォーム NX のウェッジ

上記のクッションには安定性を高める為、クッションの前方下にクサビ形のウェッジが配置されています。ウェッジはカバーの内側に面ファスナーで固定されています。用途に合わせて取り外し、加工が可能です。



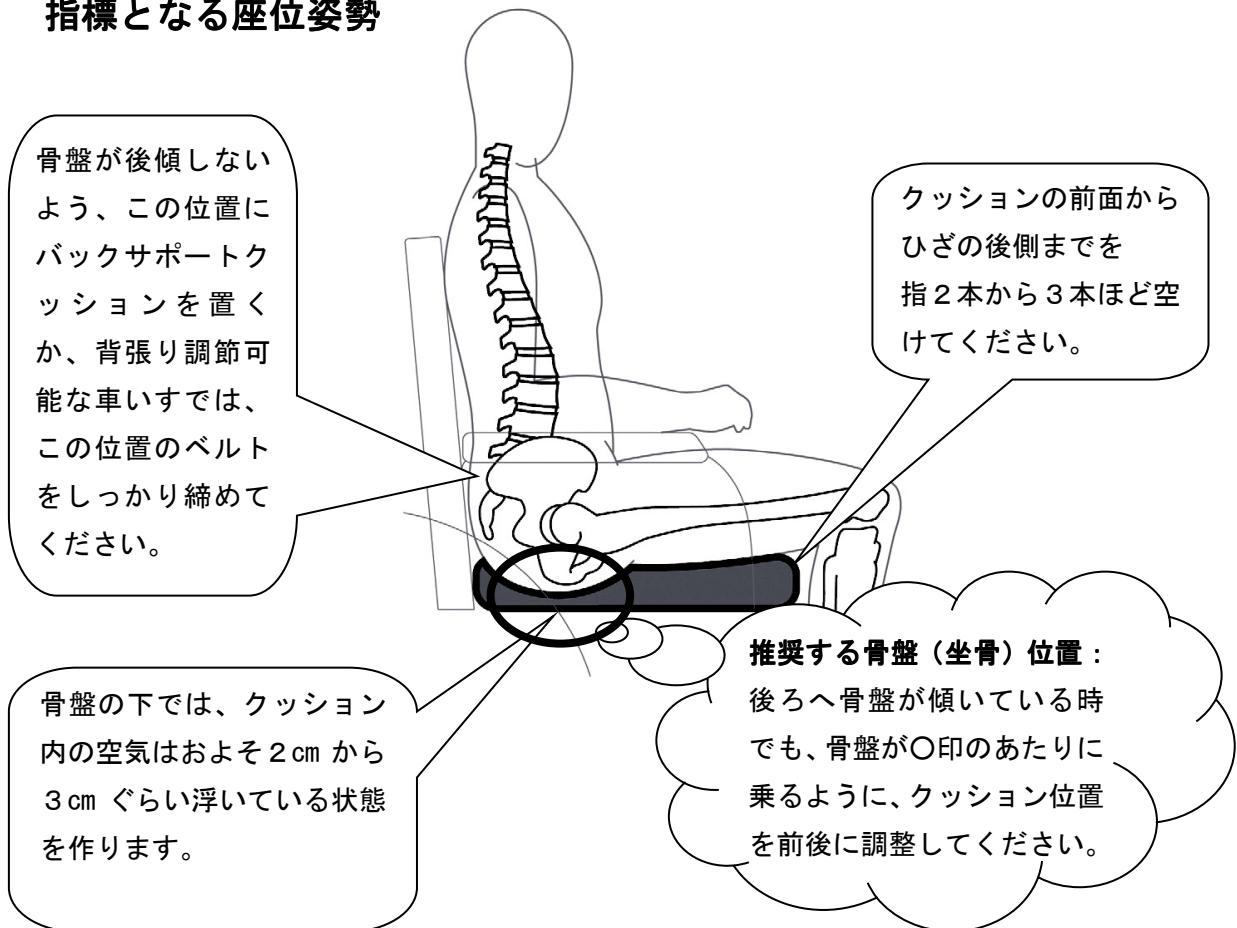
(6) 【全てのクッション共通】 良質な座位姿勢を保つ為の注意点

新しくクッションをお使いになる方や、他のクッションから VARILITE クッションに交換すると、車椅子を調節する必要が出てきます。療法士または正しい装着法の知識を持った人と相談される事をお勧めします。身体寸法に合わせてバックサポート、フットサポート、アームレスト等の位置をチェックして下さい。

ご注意 :新しいクッションの使い始めの時は、皮膚に赤い斑点の圧迫痕が出ないかどうか、医師や看護士、セラピストの検査を受けながらお使いになることをお勧めします。検査は使用開始から 5 分後、数時間後、丸 1 日等徐々に使用時間を増やして確認して下さい。

VARILITE クッションは座面の圧を軽減できるように設計されています。しかし、長時間の座位姿勢を取られる際には床ずれ（褥瘡）リスクが伴います。定期的（少なくとも 2 時間に 1 度）に座面の圧を軽減する為の体位交換（プッシュアップ等）が必要です。また、ご利用者の健康（栄養）状態や、湿潤、患部が清潔に保たれているかによりリスクが起こり得る状況が変わりますので医療従事者の方に相談しながらご使用ください。クッションの膨らみ具合は毎日チェックして下さい。座っていて空気が抜けていく、バルブを閉めているのに使用していない状態でクッションが膨らんでくる（リフレックスを除く）ようでしたら、販売業者か株式会社ユーキ・トレーディングまでお電話ください。03-3821-7331

指標となる座位姿勢

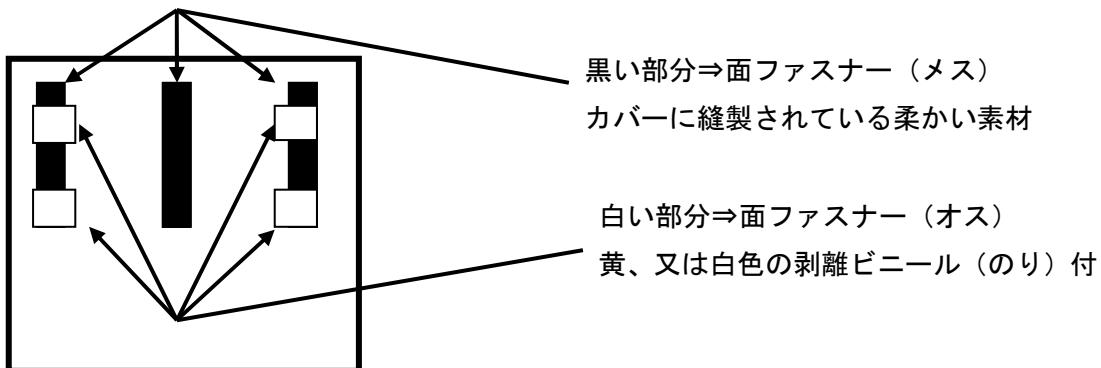


骨盤が後傾している方：車いすの奥まで深く座れない方は、骨盤が推奨される位置に来るよう、クッションを前方にずらして位置を調整してから、お座りください。このとき、クッション内にソリッドインサートパネル（別売り）を挿入したり、車いすの座シートにベルクロテープなどを縫いつけ、クッションがズれないように固定されることをお勧めします。

※ ご注意：カバーの底面に黄（白）色い剥離紙が付いた5cm角のオス面ファスナーが4枚、メス面ファスナーに着いています。通常はこのオス面ファスナーを剥がしてからご使用ください。剥がさずにご使用されると、底面の滑り止め加工の効果が落ちます。オス面ファスナーは、次ページの使い方をご参照ください。

面ファスナーの使い方

座クッションのカバー底面には、下図のように面ファスナー（時には、マジックテープ・ベルクロなどと呼ばれています）が付いています。



クッションカバーの底面

● 通常の使い方

カバーの底面に付いている4枚の「面ファスナーB」を外してから、座クッションをご使用ください。カバー底面には、ポリウレタン加工が施されており、ご利用者が座クッションに座ったときに、クッションが前方へ滑りにくくなっています。

[ご注意] 「面ファスナーB」を外さずにクッションをご利用されると、接着面に付いている黄(白)色の剥離ビニールで滑りやすくなりますので、必ず外してください。

● 「面ファスナー(オス)」の使い方：

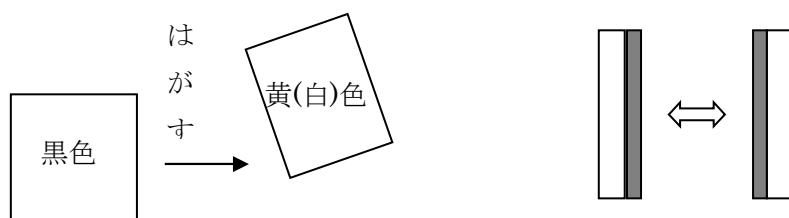
- 車いす座シートに、「面ファスナー(オス)」が縫い付けてある場合：

クッションカバーの底面に、「面ファスナー(メス)」が縫製されていますので、そのまま車いすの座シートに載せていただければ、クッションは強く固定されます。

- 車いす座シートに、「面ファスナー(メス)」が縫い付けてある場合：

4枚の50ミリ角の「面ファスナー(オス)」の黄色い剥離ビニールをはがし、接着面同士を張り合わせ、両面とも「面ファスナー(オス)」を作ってください。4枚付いていますので、2組作れます。

この2組の両面ファスナー(オス)を、座シートの「面ファスナー(メス)」とクッションカバー底面の「面ファスナー(メス)」の間に差し込むことで、クッションは座シートに強く固定されます。



黒い50ミリ角の「面ファスナー(オス)」か
ら、黄(白)色の剥離ビニールをはがす。

2枚の50ミリ角「面ファスナー(オス)」の接着面
同士を張り合わせる。

「面ファスナー(オス)」のご注意：

剥離ビニールをはがし、車いすの座シートに直接、貼り付けないで下さい。

時間が経つとはがれます。また、座シートに付いた接着剤は取れませんので、
お止め下さい。必ず、面ファスナーの使い方を読んでから、ご使用下さい。



カバー：まずクッションから取り外して、洗濯ネットに入れ、洗濯機で洗濯できます。

洗濯後は、陰干してください。(60度以下の湯または水で中性洗剤をご使用ください。)

乾燥機はカバーの形が変形する危険性がありますので、使用しないでください。

※ クッションにカバー掛けする際、前後左右の向きを必ず確認してください。

本体：まずクッションについているバルブを全てしっかりと閉じてください。リフレックスの場合はクッションの後側にある丸い空気開放口に、赤いプラグをしっかりと挿入してください。

※ クッション内に絶対に水が入らないようにご注意ください。クッションの中に水が入ると充分に膨らまなくなる危険性があります

バルブが閉じられているのを確認してから、クッションを石鹼又は中性洗剤を用いてぬるま湯で手洗いし、乾拭きした後に陰干してください。再び使用する前に、すべての部分が乾いていることを確認してください。

***バルブを開けてもなかなか空気が入らない場合：**

臀部の幅より小さいサイズや、空気を極限まで抜いてのご使用をしますと、バルブを開いても戻りが悪い場合があります。これは密度の高い特殊フォームを使用している為、材質のへたりではなくフォーム内の気泡がくっついている状態です。このようなときは、

- (1) バルブを開けて 2 分間経ってからバルブを閉めてください。
- (2) 前側からクッションを丸め、後側へ強制的に空気を送り込みます。
- (3) 完全に後側が膨らみましたら、クッションを広げもう一度バルブを開きます。今までより空気が入ります。
- (4) 全体が復元するまで(1)～(3)まで繰り返して下さい。
- (5) (1)～(4)でも入らないときは、口から息を吹き込んでください。このとき、唾液などの水分が中に入らないように気をつけて下さい。
- (6) 上記のようにしても空気が入りにくいときはご購入された販売店、又は当社までご連絡ください。

パンクかなと思ったら：

ご利用者様がご使用中に、クッションから空気抜けが感じられる場合は、穴あきの恐れがあります。そのままでのご使用は危険ですので、下記の方法で調べてください。

(a) 視覚の点検

まずは、クッション・カバーを取り外して、完全にふくらんだクッションとカバーに鋭利なものが刺さっていないか、視覚的にご確認下さい。穴あきが確認されたなら、販売店または弊社へご連絡下さい。穴あきが見つからないときは、下記の水中テストを行ってください。

(b) 水中テスト

1. 大きい盆または桶に、10~20cm位の高さまで水で満たす。
2. クッション・カバーを取り外してください。
3. バルブをしっかり閉めてください。リフレックスの場合はクッションの後側にある丸い空気開放口に、赤いプラグをしっかり挿入してください。
※ クッション内に絶対に水が入らないようにご注意ください。
4. クッションを水の中に漬けてください。
5. クッションが空気漏れしていれば、穴あき箇所から小さい気泡が上がってきます。
裏表などをひっくり返して、よく観察してください。
6. 穴あき箇所が見つかりましたら、×・○などの印を付けてください。そして、早めにクッションを提供されている会社、またはご購入いただいた会社へご連絡してください。

